

「気持ちがいい」の哲学性。
天然口ハス企業が突き抜ける、
21世紀型ビルダー像の新地平。

文：建築プロデューサー 玉田教士（LDK inc 代表）
写真：長谷部均

株式会社
エー・ディー・アンドシー
代表取締役
荒川浩司



The Works of a'D and C



古いビルをリノベーションした青山にある「CAFE246」の施工例

内装と建築屋の棲み分け

職人といえば、「家をつくる人」。一般にはそのようなイメージで捉えられていて、内装屋と建築屋という別の種類の生き物が、業界を棲み分けているというのを知っている人は案外少ないかと思えます。イルカとマグロのように、形は似ていても全く別の生き物、内装屋と建築屋は、考え方や仕事の手順に大きな違いがあるのです。建設会社や工務店などの建築屋は、法令の範囲内で安全な建物をつくる義務があります。したがって建築屋には専門の課程で勉強したという経歴の証明と種々の資格が要求されます。一方、内装屋は特に厳重な資格が必要わけではありません。その分おびただしい種類の素材に対する知識、機転、そして何よりもセンスが必要になります。案外知られていませんが、建築屋と内装屋は仲が良くないのです。

一般に大規模な工事などで建築屋は本体工事を請負い、内装屋はテナントの工事を請け負います。両者

のクライアントもそれぞれ別。建築屋はデベロッパーから、内装屋は店舗出店者から、それぞれ発注されることになり。リスクを回避したいデベロッパーの立場と、自由に出店をしたいテナントの立場は常に緊張関係にあります。したがって建築屋と内装屋の利害も自動的に衝突し、対立する関係にある。案外知られていませんが、建築屋と内装屋はともにも仲が悪いのです。

本日は「この業種の機能を併せ持つ会社にTPOがあるのかもしれない」といつも感じることがありますが、建築や内装の仕事では、安全性や建築法規、コスト、耐久性など自由を制限する要因と、デザイン性や存在感など自由を主張する要因が、いつも拮抗し矛盾しています。どんな仕事でも矛盾を突破しなければ、「いいもの」にならない。昔の言葉で言うならば「一筋縄ではいかない」のです。

自由を制限する要因には、専門知識と資格が必要。自由を主張する要因にはセンスが必要。従来の建築業界はこの二つの要素を建築屋と内装屋に分業させて、吹き上がってくる問題点を、後付けで処理する形態を採っていたのかもしれない。しかし、本日はこの矛盾を両方とも一旦取り込んで、昇華した解決策を提示できる企業。それが21世紀型の新しい建築業のイメージだと思っています。ここが重要ポイントなのです。デザインリフォームという仕事のむずかしさと可能性について考えてみる。

たとえば、デザインリフォームというカテゴリーについて考えてみ

「名前をたくさん知っていることより何倍も大切だということ。この人たちは分かっているのです。空の提案や素材選びも、彼ら独自の快樂原則から肩肘張らずに生まれて来るのでしょ。」

「ものづくりの魂。身体感覚でやっていると悪いことをやっていること。謙虚なプライドとリーダーシップ。」

職人であった荒川さんはやっていることとタメなことを、身をもって知っています。当節CADで味気ない図面を描く設計者に、素材の特性や使い方のセオリーを教えることが忙しいそうです。試してみることに。新しいことにチャレンジする人は、必ずこのプロセスを踏みます。内装で言えば、サンプル作り。これが自分たちのデザインの言葉(素材)を豊かにしていく上での命です。その蓄積から動くよつになり、やっていけないこととタメなことが、はっきり分かってくる。

「自由なデザインの発想と押さえておけるメリハリ。エー・ディー・アンドシーのように、この問題意識を持つ経営者のいる会社が、新しいビルダーのイメージなのです。言葉は知らなかったけれど、この会社は天然口ハスでした。」

荒川さんは最近、自分たちの出す「ミヤ余った材料が、あまりにもつたいないので、同業他社とのネットワークでこれらを有効活用する方策を模索しています。ケミカルな残材を土に埋めてしまつような処理場の現状をいつも見ていると、自分にと

る。自由の制限と自由の主張という二つの要素、その矛盾の昇華が、心地よい空間造りの条件という意味では、デザインリフォームはまさにその典型例です。リフォームは、対象物件の建築構造や配管ルート、電気系統などの高度な知識が不可欠です。また、制限されたスペースを愛着の持続する空間に変化させるバランス力やセンス、素材の知識が同時に要求されます。

自由の制限と主張。この矛盾を突破するポテンシャルの見極めが、ビルダー選びのポイントと言えると思います。今回は、そのような観点から内装屋を出発点に総合的に伸びていることとする若々しい企業を紹介しましょう。

エー・ディー・アンドシーの仕事には「自由」ということばの意味を、再認識できる清々しさがある。

エー・ディー・アンドシーは今年で創業10年になる売れっ子インテリア企業。デザイン物件の設計から施工まで総合的に提案する新しいタイプの企業です。デザインリフォームや最新の飲食店、アパレルのデザインや施工だけでなく、ライフワークで幼稚園の仕事が続けたりする。落ち着きと運動性、両立することの難しい二つの要素のバランスをいつも感じさせてくれる会社です。自由な空気感も手伝って、エー・ディー・アンドシーは今、いろんな人たちが、職人や設計者、デザイナーが入り込むプラットフォームになっていきます。まさに梁山泊です。

「気持ちが良い」のだから、つて「気持ちが良い」のだから、です。しかも「そのような処理場の現状を知っているのは、設計者でもなければデザイナーでもない。自分たち業者だけなんです。だから僕たちで何とかしないといけない。」と彼は言います。そう考えると必然的に提案する材料も天然素材が多くなる。別に世界平和を考えているわけでもなく、自然体に話す荒川さんの口ぶり、とても実感の籠もつたりリアルティーを感じました。仕事に鍛えられて、それでも前向きに自分と向き合っている人がたくさん集まって、自分と社会の良好な関係を極自然に身につける。是非そうあって欲しいものだと思ひ感じました。それが、建築業の勤めなのかも知れません。

このような会社にコンピューターばかりやっている若いヒトがたくさん集まって、自分と社会の良好な関係を極自然に身につける。是非そうあって欲しいものだと思ひ感じました。それが、建築業の勤めなのかも知れません。

株式会社エー・ディー・アンドシー
代表者 / 荒川浩司
所在地 / 東京都世田谷区北鳥山9-2-6
☎03-5315-3519
E-mail: mail@adandc.jp
http://www.adandc.jp/

玉田教士
LDK HOME STYLE DESIGN
http://www.ldk.co.jp/



家具ショップとのコラボレートで材料をインドネシアより輸入し、パリの高級ビラを演出



銀座にある寿司屋の一部をVIPルームに改修。そのアプローチ部分



テナントビルのリノベーション。床を抜くことでメソネット・タイプに改修



木造住宅をリノベーション例。2階はそのまま住宅に、1階はオフィスとして利用



築30年の木造住宅をリフォーム。材料は余材や廃材を利用し極力コストを低減



一軒家をリノベーションしたエー・ディー・アンドシーのオフィス